

シリーズ掲載

言語活動の充実に向けたはじめの一步



「学びがいのある魅力的な学習課題づくり」～プロローグ～

言語活動は、児童・生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育むための、効果的な手段です。ですから、日々の授業を「言語活動の充実」という視点から見つめ直し、質の向上を図っていくことが大切です。

★福島県教育委員会では★

『学校教育指導の重点』で、

言語活動の授業への位置付けと充実

を「授業改善のポイント」として大きく掲げています。

★福島県教育センターでは★

「言語活動の充実についての調査研究」において、

学びがいのある魅力的な学習課題

を「言語活動の充実の日常化」を図る上で必要な授業の要素の一つに挙げています。



学びがいのある魅力的な学習課題とは・・・

「解決したい」「調べたい」「何とかしたい」という思いを高め、児童・生徒が意見や考えを「聞きたくなる」そして「伝えたくなる」ような追究意欲を駆り立てる学習課題、あるいは話し合う必要感を生む、多様な意見や考えが導き出される学習課題。

(『平成 26 年度 学校教育指導の重点』福島県教育委員会 7 頁掲載)



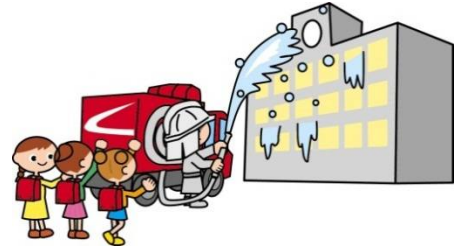
このことから、言語活動の充実を図る授業づくりを行う“はじめの一步”は、「学びがいのある魅力的な学習課題づくり」であると考えます。

そこで、社会の部屋では、「学びがいのある魅力ある学習課題づくり」について、授業レベルで具体的に、シリーズで紹介していきたいと思えます！

さて、**次回シリーズ1回目**は、小学校4年「消防署ではたらく人のしごと」の単元において、学習意欲が持続する魅力ある学習にするための**事象提示の工夫**による「**学びがいのある学習課題づくり**」について具体的に紹介していきます。

よくある学習課題

- A 消防署で働く人の仕事を調べよう。
- B 消防署のひみつをみつけよう。
- C 消防車がはやく出動できるひみつを調べよう。



Aの課題では、子どもたちが調べる必要感があまり感じられません。先生が、教科書に沿って「今日はこれを勉強します」と言っている感じですね。

Bの課題は、“何の” ひみつを調べればよいのかが分からず学習の具体性や方向性が曖昧です。

Cの課題は、調べるひみつに“具体性”と“方向性”が見えてきます。

なぜ、Cのような課題が設定できたか！

そこには、**教師の“仕掛け”**があります。

ある火事の事例を写真や地図等の資料をもとに提示し、「火災発生から約4分で消防署から5キロ離れた火災現場に消防車が到着した」などという事象を示せば、子どもたちの驚きや疑問を引き出し、Cのような課題が生まれるでしょう。

さて、子どもたちには、「消防署の仕事＝火事を消す」というイメージがあると思われます。

しかし、消防署の仕事は、消火業務だけではありません。**子どもたちが「当たり前」だと思っていた消防署のイメージを揺さぶり動かすことが、新たな社会認識を生み、豊かな学びへとつながっていきます。**



さて、「消防署＝火事を消す」という**イメージを揺さぶる**には、どんな**仕掛け**をしますか？

**みなさんも一緒に考えてみてください。
次回はどうぞお楽しみに！**

